

# 青果から2店を選出

農水省大臣 官房長賞 サンフレッシュ、日経新聞社賞 久本青果

食品等持続的供給推進機構（村上市秀徳会長、食料システム機構）はこのほど、2025年度の「優良経営食料品小売店等表彰事業」の受賞店を決定し、都内で表彰式を行った。入賞は合計35店。このうち青果では、サンフレッシュ（村川明弘社長、札幌市東区）が農水省大臣官房長賞を、久本青果（久本陽平社長、福岡市東区）が日本経済新聞社賞を受賞した。

同事業は、各地域で優れた経営を実践する食料品専門小売店などを発掘表彰するとともに、その経営ノウハウを広く公開することを目的としている。35回目を迎えた今回、35店が受賞した。

は、農林水産大臣賞3店、農林水産省大臣官房長賞6店、日経新聞社賞6店、日本政策金融公庫総裁賞6店、食料システム機構会長賞14店、合計35店が受賞した。

審査委員長の小山周三・西武文理大学名誉教授は、受賞店について「それぞれがオンラインをめざし、創意工夫に取り組んでいる姿が印象に残った」とコメント。



（右）「4月に創業101年を迎える良い記念になった」とサンフレッシュの村川社長、（下左）久本青果の久本社長

第35回 優良経営食料品小売店等表彰事業  
 主催：公益財団法人食品等持続的供給推進機構 後援：農林水産省・日本経済新聞社

「健康とおいしさ」を顧客に提供するという共通した経営理念があり、「食と農をつなぐコーデイナー」の役割を担う姿も多く見られたと語った。

農水大臣賞に選ばれたのは、町の小さな魚屋さん 千林江山（せんばやしこうざん）、十楚武司代表、大阪市旭区）、米蔵家（こめくらや、山本恒久社長、愛知県知立市）、r・joule（アールジュール、松尾裕生社長、神戸市中央区）の3店。オリジナリティに富んでおり、かつ総合的に見て優秀な経営であると判断された。

青果店で農水省大臣官房長賞を受賞したサンフレッシュは、札幌市中央卸売市場

の仲卸・札幌丸協青果が1987年に設立した。前身の村川嘉三商店は1925年の創業。市内に5店舗ある青果店「八百丸」のうち、サンフレッシュは中の島店と琴似店の2店舗を経営している。札幌市中央卸売市場をはじめ、苫小牧市公設地方卸売市場や契約生産者など、複数の仕入れチャネルを持ち、品揃えを

充実させている。「対面販売」「仕入れ力」「リーズナブルな価格」といった青果店としての王道を歩みつつ、高い成長と収益を達成している経営力が評価された。

また、日経新聞社賞を受賞した久本青果は2007年の創業。福岡市内に箱崎店と千早店の2店舗を構える。福岡市中央卸売市場や熊本地方卸売

市場から仕入れるほか、契約生産者からも調達する。数年前からインスタグラムを積極的に活用し、商品紹介や親子で参加できる収穫体験の様子などを発信。店主自らメッセージを伝えることで、若い世代の取込みに成功し、売上増につなげている。こうした健康と地域コミュニティを支える取組みが評価された。